

# ヒラタケ栽培マニュアル

—大型ヒラタケの安定生産に向けて—



野外栽培



簡易施設栽培

ヒラタケは「三重シメジ」として全国一の生産を誇ったこともありましたが、様々な要因によりその生産量は減少傾向にあります。

そこで、三重県では他の栽培きのこの差別化が容易な、大型で日持ちの良い品種を選抜、育種し、栽培マニュアルを作成しました。

この品種は、空調栽培、自然栽培いずれにおいても栽培が可能で、また大規模なビン栽培にも使用が可能です。



## ヒラタケ栽培マニュアル

2013年3月発行

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1

TEL059-262-0110 FAX059-262-0960

E-mail:ringi@pref.mie.jp

<http://www.mpstpc.pref.mie.jp/RIN>

三重県林業研究所

# ◆ ヒラタケ栽培工程（袋栽培） ◆

## 培地作製



広葉樹オガ粉に米ぬか、フスマ等の栄養体を混合し含水率を63%前後に調整します。

## 袋詰め

1日



ポリプロピレン製の袋に培地を2.5-3kg程度詰めます。

## 殺菌



培地内の温度が118℃以上で1時間程度維持し、培地内の害菌を殺菌します。

## 放冷・接種

1日



クリーンな条件下で1晩放冷した後ヒラタケ種菌を接種します。

## 培養

3-4カ月



温度20℃、湿度70%程度の条件下で3-4カ月程度培養します。

## 芽出

2-3週間



培養が完了した後発生場所へ移動し、原基が形成された時点で袋をカットします。

## 発生

接種より4-5カ月



温度15℃、湿度90%以上の条件下できのこの発生を促します。

空調栽培

自然栽培



表面が乾かない程度に散水し、きのこの発生を促します。

## 収穫・出荷

1日



きのこの傘が開ききる前に収穫しパック詰めします。発生処理より収穫までの期間は2-3週間です。自然発生の場合は気温の変化に大きく左右されますが、10月下旬に発生処理を行うと効率よく収穫できます。いずれも1菌床当たり合計で600gを超える収穫が可能です。

空調施設における培養期間別の発生量

系統	供試数	平均発生量	培養期間
500号	8個	421.3±106.4g	2カ月
500号	8	526.8±69.6	3カ月
500号	8	447.5±87.3	4カ月
F-8005	8	621.0±87.6	2カ月
F-8005	8	643.0±123.7	3カ月
F-8005	8	689.0±113.4	4カ月
0系統	8	535.8±102.9	2カ月
0系統	8	680.8±95.7	3カ月
0系統	8	547.3±69.1	4カ月

野外における発生処理時期別の発生量

系統	供試数	平均発生量	発生処理時期
F-8005	10個	596.2±69.8g	9月下旬
F-8005	10	626.8±104.6	10月下旬
F-8005	10	355.0±110.4	11月下旬
F-8005	10	278.9±120.6	12月下旬
0系統	10	558.7±102.4	9月下旬
0系統	10	566.2±97.6	10月下旬
0系統	10	386.0±86.4	11月下旬
0系統	10	298.7±66.2	12月下旬

当研究所で選抜、育種したF-8005、0系統は従来の栽培品種（500号）に比べ日持ちが良く大型のきのこが収穫できます。また、培養期間を延ばしても袋内部で発芽しにくく、奇形が出にくいなど扱いやすい特性で、発生時期の調整が容易に行えます。